

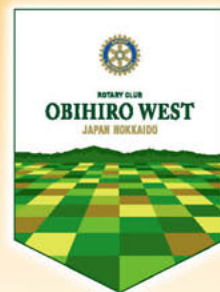


帯広西ロータリークラブ

第2035回例会

会報

2014.3.13



■RI第2500地区テーマ■

「讚えよう地域を!クラブを!会員(自分も)を!
ロータリーとの出会いに感謝!



■クラブ・テーマ■

「ロータリークラブに出席し、ロータリーを楽しもう」
(Attend at the Rotary Club, and let's enjoy a rotary)

会長報告

齊藤憲生会長

皆さん、こんにちは。会長報告を致します。

さて、東日本大震災から3年が経ちました。午後2時46分、私は診療中でしたが、大きな揺れで怖かったのを今でも覚えています。テレビでは、最近の東北の様子が映し出されていますが、決して順調に復興している感じがいたしません。あれは鈴木年度でしたか、西クラブみなで義援金を集め送りました。きちんと、そんなお金も使われているのだろうか、ふと疑問に感じました。

今日の卓話は、会長エレクトの平田利器会員のお話し。会長職も、あと3ヶ月半で平田エレクトへバトンタッチ。私は、少しずつ、心が晴れやかになってきました。

逆に、最近、平田エレクトから多少、笑顔が少なくなってきた感じがいたします。そんな中ですが、今日は平田エレクトらしい楽しい卓話を期待しています。

今日は、ケガした右膝が少し痛みます。リハビリの足りなさを指摘され、階段を上り下りしているのですが、少し無理したせいかもしれません。4月10日にケガしたので、あのケガからもう少しで1年が経ちます。ケガした時に、ああ会長職ダメだ、そう思った瞬間、平田利器エレクトの顔が、私の脳裏を横切りました。でも何とか、奥田幹事や皆さんに支えられて、ここまで来ることができました。

報告事項が2つあります。



1つは残念な悲しい報告です。先週の3月4日、1984年85年度、RI第2500地区ガバナーの道下俊一様(浜中RC)がご逝去されました。聡明な方だったのでとても残念です。通夜・葬儀は近親者のみで7日8日に執り行われました。ここに謹んで哀悼の意を表し、皆様にお知らせ致します。

2つ目は、先週、幹事から聞きましたが、5月10日、屈斜路湖で2500地区のセミナーが行われます。これは例年、無いことなのですが、地区大会の時、藤本ガバナーがご病気で出席出来なかったことで、急遽、この日にセミナーをする事が決まったそうです。この参加者は理事会で対応する予定です。

一昨日、レスリングの吉田沙保里選手のお父さんが、車の運転中に、くも膜下出血の発作がおこり、車を路肩に寄せ、そのまま息を引き取られたそうです。享年は、私と同じ歳の61歳、どうか皆様も健康だけは気を付けて下さい。年功序列で具合が悪くなる、そんな事は決してありません。

皆様の健康を切にご祈念して会長報告を終わります。ありがとうございました。

会務報告

奥田頼昌幹事

- ①帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日 時 3月20日(木)午後6時30分
場 所 北海道ホテル
- ②帯広北RC、3月21日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広RC、3月26日(水)の例会は、休会と致します。
- ③第6分区分IM(都市連合会)開催のご案内



ニコニコ 3月13日 8,000円
献金 累計 377,000円 (3月13日現在)

2014年 3月 識字率向上月間



会 長 齊藤 憲生 副会長 佐藤 聡 会場監督理事 横田 幸宏 発行：広報委員会
幹 事 奥田 頼昌 副会長 石原 英樹 プログラム委員会理事 太田 豊 委員長 北川 勝啓 (副)森 房明



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

日時 3月29日(土)
場所 ホテル日航ノースランド帯広
～スケジュール～

受付登録 13:30～14:00
開会式 14:00～14:30
特別講演 14:40～15:40
＜講師：田中雅美様＞
基調講演 15:50～16:40
＜講師：葎本正美ガバナー＞
閉会式 16:40～17:10
懇親会 17:30～19:00

※尚、帯広東RCは、3月25日(火)の繰下げ例会と致します。

帯広西RCは、3月27日(木)の繰下げ例会と致します。

帯広北RCは、3月28日(金)の繰下げ例会と致します。

帯広南RCは、3月31日(月)の繰上げ例会と致します。

帯広RCは、4月2日(水)の繰上げ例会と致します。

小川光司会員より退会の挨拶がありました。



委員会報告 米山記念奨学委員会 渡部省一委員長

米山記念奨学会より米山記念カウンセラーの北川勝啓会員に感謝状が、また米山記念奨学生のカミングキード・キャサリンさんに修了証が渡されました。カミングキード・キャサリンさんよりクラブに論文が贈呈されました。



新入会員紹介



伊藤 公康 君 (推薦者 茨木雅敏会員)

立崎貴之会員



ニコニコ献金 親睦活動委員会 三野宮 功会員

渡部 省一会員 3月22日キャサリンの送別会よろしくお祈いします。

久保 且佳会員 4月より二女は看護師として就職し、長男は東京の大学に進学が決まりました。ちょっとさびしくなりそうです。

立崎 貴之会員 新入会員の伊藤さんの紹介をさせていただきます。よろしくお祈いします。

三野宮 功会員 ニコニコ、読ませていただきました。



◆プログラム

職業奉仕委員会

「石油業界とタイヤ」



平田利器 会員

皆さんこんにちは。

職業奉仕委員長の茨木会員より、会員卓話の御指名を戴きました。ソチオリンピックも終わりスポーツに関する事より、業界の話も面白いかもしれないね、と言うことで「石油業界とタイヤ」についてと言うテーマを戴きました。

石油とタイヤは、切っても切り離せられません、まず石油を精製すると、ナフサと言う物が出来ます。これが主原料です。他にレーヨンコード、カーボンブラック、接着溶剤など数多くの石油製品から成り立っています。石油業界については、三洋興熱笹井会員、北協石油若林会員、北炭総業横田会員、更には東光舗道河西会員、の方々のほうがずっと知識や歴史を御存知かと思いますが、不備な点はお許しください。

さて、石油業界を語るとすれば、歴史的にも、石炭産業から成ると思います。帯広では、三洋興熱の三洋石炭、熱原の第一石炭、菱雄石炭、北炭、と大手の石炭卸、販売店が多くありました。そこで1962年(昭和37年)頃に、原油の輸入自由化をきっかけに石炭から石油産業へと急激に転換されたと思います。ここで皆様方は現在まで

の銘柄をどれほど記憶されているでしょうか。

業界が再編されている中ですので少々不安ですが、並べてみました。

日本石油(現エネオス)、北海道エネルギー、栗林、太平洋、勝木、山崎。主な販売会社、共同石油IX、熱原(現在はエネオス)、シェル石油、宮本、大協石油、北協石油、モービル石油、三洋興熱、スタンダード石油、出光興産、栗山、宇佐美、スズラン企業。又、昭和石油、ゼネラル石油、三菱石油の菱雄、キグナス石油、コスモ石油、丸善石油など沢山の銘柄販売店がありました。

ここ数年の間に、スクラップ&ビルト方式で合併、吸収が進み、現在のセルフ中心の方式に形を変えてきたのですが銘柄も少なく成ってしまいました。

それではタイヤ業界の変遷はどうだったのか本題に入ります。

十勝、帯広地区はナンバーワン、オーツタイヤでした(昭和30年代オーツアイゼンスノー&スパイクタイヤが中心で売れていた)。武山商會が総代理店だった、次にグッドイヤーで帯広ホンダモーターの石原自動車グループが代理店でした。昭和30年代はまだ車の台数も少なく(この時すでに(株)ジーワイが進出し熱原グループがジーワイ中心であった)、昭和40年代に入り、ヨコハマタイヤの進出でした(ラジアルタイヤの普及でGTスペシャルが代名詞的で人気があった)、帯広地元の経済人とメーカーの出資、とりわけ中島自工、栗山産業が中心に展開したと聞いています。

同じ頃、ダンロップタイヤの進出、これは旭川日産自動車帯広支店が代理店の権利を持っていたので、外販活動の一環として扱われ、後に日産の合併により、メーカーの出先販売会社が現れました。当時は扱いの出来る自動車会社整備工場、ガソリン販売店に各メーカーがしのぎを削り販売代理店を増やしていた時代です。いまだダンロップ北海自動車、東北海道いすゞに対して代理店契約を続けています。

最後にブリヂストンの出番と成りました。すでに札幌圏には昭和30年代に販売店、代理店を出して、地方へは駐在が多く、昭和40年後半に道東方面に向かって展開が始まりました(系列化された)。この地は古くから自ら選んだメーカーが根強くあり、北海道の中でも市場の拡大に手間がかかった地域です。

帯広では、タイヤがガソリンスタンドを中心に扱われ、次が整備工場でした。パンク屋と称してタイヤ専門店は有りましたが、修理が大半でタイヤを売るよりも修理代の収入が多かった様です(現在の車と変わらぬ工賃ですので高い修理代です)。

帯広でのブリヂストンはどうだったのか。

母体は、山崎石油のタイヤ部門。昭和44年頃、当時取締役の三浦龍之助氏が独立に際し退職金代わりにタイヤ部門を分離し、譲渡する事で三浦産業を設立。当時は農家用ハウス、ヤマハバス、スポーツ用品、ゴルフ練習場を含め多角経営に向かっていた。後にミウラスポーツとして継続、しかしタイヤ部門は業績不振。メーカーからの支援なしでは難しく成って、100%メーカー資本によってブリヂストンタイヤ帯広販売が、昭和48年に正式販売会社に成ってここからルートセールスが始まりました。

遅れての進出だったこともあり、思うような業績が上げられなかったのと、お客が増えない現実で有りました。先に説明のオーツ、GYの基盤、そしてヨコハマの存在です。運送事業社への納入も始まった頃です。

ここでラッキーな出来事に遭遇しました。昭和50年代のオイルショックでした。タイヤの生産にも影響し、生産量と品質安定していたブリヂストン人気でした。即納品出来なくとも予定を組み替えて数多く市場での品不足が続いた中で、運送事業関連への供給を始めとして、自動車会社、スタンド、整備工場に納めることが出来、遅ればせながら徐々に販路拡大し知名度も上がりました。

そこで私の存在は如何な物か、昭和46年大学を卒業と同時に3月に三浦産業へ入社、いきなりスポーツ用品担当、まず取り扱いメーカーを決める為、学生時代のコネで

サント、後発のゼットスポーツとの窓口を開き、体育施設機器は势能体育にお願いし、当時の音更高校体育館設備を設置、一身上の都合にて9月に退職し、釧路本社のボーリング場の開設に道東各地を走り回りました。

昭和49年縁が有り、呼び戻しの声が掛かり、2月よりタイヤのセールスに成りました。担当は整備工場、自動車販売会社、農機具メーカーを約17年間担当し、現会社の設立独立をメーカーと共に、平成1年10月に帯広中央タイヤ販売株式会社を同年12月に創業いたしまして現在25年目を迎えています。

ブリヂストンタイヤは1931年福岡県久留米市にて創業者石橋正二郎資本金100万円で創立、すでにイギリスではニューマチックタイヤ社(空気入りタイヤのもと、のちにダンロップ)、フランスではミシュラン、アメリカではグッドイヤー社が創業していて、遅れること3、40年後で有りました。

昭和の初期1918年頃、日本足袋株式会社を創立後に地下足袋創世によりゴム工業への参入に繋がり、世界より40年から50年遅れの業界に参入し、外国へ勉強に出て行ったとのことでした。

1888年イギリス人獣医師JB、ダンロップが空気入りタイヤを開発し、ミシュランも空気入りタイヤで急速に需要が広まる。1900年ハーヴィファイアストーンがファイアストーン社を創業し、1909年頃神戸にイギリスダンロップが日本支店を設け、後の日本ダンロップとなる訳です。

世界のゴム及びタイヤ業界は1916年頃、グッドイヤー社、ファイアストーン社、グッドリッチ社、ユニロイヤル社、ゼネラル社、ダンロップ社の6社が世界をリード。1931年ブリヂストンタイヤを日本足袋より分離独立、この時アメリカは自動車保有台数2300万台、日本は8万代に満たない時代。タイヤは全て輸入品で高価な商品だった。先見の読みで工場の拡充と技術開発、品質向上と次々事業を展開し現在に至っています。

最後に、世界の現状を説明して終わりたいと思います。

2013年9月時点
タイヤ世界売り上げランキング

1	ブリヂストン	312億USドル (日本円3兆1500億)
2	ミシュラン	268
3	グッドイヤー	189
4	コンチネンタル	130
5	ピレリー	80
6	住友ダンロップ	69
7	ハンコック	66
8	ヨコハマゴム	49
9	チェンシンラバー	45
10	クムホタイヤ	34
11	クーバータイヤ	32
12	東洋ゴム	30

2013年9月時点
タイヤ北米売り上げランキング

1	ブリヂストン	92億USドル (日本円9200億)
2	グッドイヤー	80
3	ミシュラン	80
4	コンチネンタル	29
5	クーバータイヤ 東洋ゴム	24
6	ハンコック	14
7	ヨコハマゴム	13
8	クムホタイヤ	7
9	ピレリー	6.4

【お知らせ】 ※3月のロータリーレートは、1ドル=102円です。